

# 東京薬科大学新聞

発行・編集 東京薬科大学新聞会  
 東京薬科大学王子市  
 堀之内1-132-1  
 責任者 藤城弘子  
 平成13年12月7日  
 発行  
<http://www.toyakunews.hoops.ne.jp/>

## 新聞会世荒らし七人旅

### 難破船は何処へ行く

二十世紀 波瀾の幕開けと称される今年も残すところあと僅かとなった。

混沌としたこの情勢の中、今年の新聞会を振り返ってみると世間と同様、いや、それ以上に波乱万丈であった。七畳一間の狭い部室では数多くの壮絶な人間ドラマが展開され、もはやそれらを刺激として受け止められなくなった小生も悲しいが、ここに脚色を織り交せてその一部を紹介したい。

なお、キャストインクに関しては某時代劇を参考に、筆者の独断と偏見で行ったものである。ご了承頂きたい。

キャスト(二部のみ紹介)  
 梅長 蜜園  
 副会長 助さん  
 編集長 核さん  
 マリーゴ お吟

ちびた 愛狼  
 ねね お七  
 わっしー 八兵衛  
 前議長 長谷川平蔵  
 元長 大岡越前神

四月  
 一年女子逃亡事件  
 今年は上級生の協力の下、ギターのお吟とバイオリンのお七の美音・美貌攻撃で約二十名の新一年生の勧誘に成功。しかし、努力空しく女子は三名しか入会せず、さらにその三名とも前期中に退会することとなった。蜜園の代では男子が八兵衛一人であり、かつ八兵衛は弥生頃から流浪の旅に出たため、それが影響したのか。

また、今年になってさらに満研色も濃厚となり、聡明で可憐な女性新聞会の厳しい生存競争には勝てなかつたらしい。更なる女子獲得に向けて密かに一人当たり懸賞金百万円(出資元蜜園)が賭けられたが失敗に終わり、蜜園は安堵する。

かくして個性溢れる人員を率いて、長旅に立出ることとなった。

会計執行交代事件  
 早月になり、突如として元会計お姉が脱会した。以後約一カ月間、執行交代を巡って、収支台帳の投げ合いが繰り返された。「会計を引き継ぐくらいなら忍び旅など辞めてやる」発言が続出し、蜜園と核さんは苦難を強いられる。各地での紛争の末、核さん指導の下に山本剛君が跡目をとること。

さらしにこの時期、新聞の四面化抗争も本格化し、印刷の業者への依頼や、新聞作成ソフトの使用により新聞に新たな旋風が巻き起こったことも記憶に留めておいてほしい。

番外編 震撼コンパと恋話  
 震撼コンパでは一年生を盛り上げようとする余り、助さんが一次会終了後ノックダウン。その晩は旅館「愛の巣」にお世話になることになった。また早月は、一年生の本性が剥き出しになる時期でもある。渡辺大地左衛門が会室にて「恋人ができたら退会する」宣言をし、核さんによって会室の至るところに誓約書が貼付された。

文月  
 核さん逃亡未遂事件  
 ほぼ単独での編集作業や蜜園との確執もあって、核さんいよいよ逃亡を図る。愛狼と蜜園号位。だが大岡越前神の尽力もあり、平定する。このことを契機として一行の仲もより深まることとなる。不謹慎ではあるが、愛狼の涙はとも美しかった。個人的にはもう一度涙姿を見せてほしい。

蜜園渡米事件  
 蜜園いよいよ世界制覇を狙う。まず、第一段階として世界共通語を身につけるべく、亜米利加に渡る。しかしここに問題発生。日本ではパスポートとして通用した印籠(いんろう)が亜米利加では理解されず、手続きに戸惑い一週間帰国延長となる。

さて次期執行は滞りなく決定し、会長に薬学部の山本剛将軍、副会長に同学部の田口裕介将軍補佐、会計に生命科学部の横松克典副将軍が就任した。剛将軍は時代にそぐわないスベアポケットを隠し持ち、しばらく異次元空間を浮遊することもあるので注意された。また田口将軍補佐はしばしば自らの学籍番号を名乗り、恋人募集宣言するので来年の勧誘時には要注意である。横松副将軍は剣道部で様々な手技を身につけ、いまや前会長、長谷川平蔵殿と同様三刀流を使いこなす達人となった。震撼コンパのときには一年生のことを粒ぞろいと評したが、ここで兵ぞろいと訂正する。今後の新聞会に行く未が染しみである。(梅長)

## 私的恋愛論

ぬくもりが恋しい季節である出るのは億劫になり、こたつの中でみかんを食べることにささやかな幸せを感じ、あわよくば人肌で暖めてもらおうなどと企んでいる人もいることだろう。暖まるなら人肌が一番だと主張する人もいるに違いない。

さて、クリスマスも間際のこの季節になると街中のカップルがやたらと目に付くが、取えて問いたい。なぜ、人は恋をするのだろうか？人を想うこと、それは何よりも尊いものと言う人もいる。しかし、友人を誰よりも大切に思うことはできるだろうし、家族は絶対失いたくないと思うこともできる。有体には言えば、ただ大切に想える人を求めるだけでは、恋人が絶対不可欠とは言いきれないのである。それでもなお、人はただ一人の存在を求めてやまない。一体、恋愛の何がそうさせるのだろうか。答えは人それぞれ、正しい答えはありえないと思うが、答えの一つにはこんなことが考えられるのではないか。友人や、家族に対しては持ち得ない感情が多い。友人に嫉妬することは稀だろうし、家族のことを他の誰よりも知りたい、と思うこともまずないだろう。それが、恋人となると、相手の全てを知りたいなどという大それたことも堂々と行ってはばからないのである。何はともあれ、恋愛が人を成長させるのは間違っていないだろう。これを読むあなたに恋人がいようとまいと、自身を高めるためにもぜひ人を好きになるという気持ちを大切にもらいたいものである。ただ、危ない恋愛には注意しましょうね♪

## 味見

●地球温暖化現象にて最近マリアのりがり懸念されている。しかし、東南アジアへの旅行客の数は増える傾向にある。ハマダラ蚊はこの気候をこの上なく愛してやまない。そしてその体には毒素マリア原虫が住んでいる。●ハマダラ蚊は生き残り、その子孫を残すために血液を吸う。そんな彼女(血液を吸う蚊は一般に雌である)に愛された人は血液を与えた報酬としてマリアをくれるのである。

●そんなマリアを予防するために旅行中常に薬を服用する必要がある。その薬を出た後、少なくとも一週間は飲み続けなくてはならない。これをサボると、かかってしまう。●しかし、マリアはかわいそうな寄生虫であると思っ、せつなく生きていける巣を獲得したというのに、その宿主を殺し、自分の住みかも失ってしまうのだから。●反対に日本海の温暖化による鮭の減少に伴い条虫の数は減っている。これは、ダイエットに動しようとする女性とコレステロール過多の中年男性にとつて悲しいべき事実である。

●やはり、寄生虫世界にもシビアな現状があるのである。か。ヒーロー(愛され者)が常に勝利する世界などあるわけでもなく悪者が世界を牛耳るのである。寄生虫世界にヒーローの存在希望をチラッと覗いた気がした。(完咲樂)

